くらふと 県育協だより

発　行
鳥取県子ども家庭育み協会
広報委員会
第28号

鳥取の保育園 私たちの園

所在地：鳥取県鳥取市伏野193-5
定員：100名（０～５歳）

白兎保育園 園長
冨吉　由美子
（とみよし　ゆみこ）氏

白兎保育園は平成24年３月に開園60周年を迎え、平成26年４月に鳥取市から社会福祉法人あすなろ会へ指定管理を受け開設。
平成26年４月１日に新園舎が完成し竣工・開園式を挙行、平成27年６月に園庭を芝生化。
０～５歳児の一貫保育として保育園を運営。

― 第５回　くらふと広報誌からの保育園紹介 ―

社会福祉法人 あすなろ保育会
白兎保育園

白兎保育園は平成26年度に鳥取市の指定管理を受け、あすなろ会が運営する公設民営の保育園として５年目を迎えます。園舎は、耐震性や耐久性、津波等の災害に対して安全性を確保するとともに、人に優しいバリアフリー環境の整った施設となっています。また園舎東壁面には神話「いなばの白うさぎ」に因み、大国主命と八上姫、白うさぎが描かれ、神話の地に相応しい特徴的な外観を見せています。そうした充実した保育環境の中、昭和43年に設立された社会福祉法人あすなろ会が掲げてきた「一人ひとりを大切にした保育」の思いから担当児制を取り入れており、50年経った今も変わることのない考え方を継承し子どものための保育に努めています。

保育理念
☆一人一人を大切にし、地域の中で仲間と共に輝く子どもたち。

保育方針
☆心身ともに健康で情緒の安定する環境を整え「生きる力」を育む。
☆保護者との信頼関係を築きながら地域・家庭支援をする。
☆豊かな人間性を持ち、心身ともにしなやかな子どもを育成する。

保育目標
☆しなやかな心、人を大切にする子ども
☆丈夫なからだ、挑戦意欲を持った子ども
☆最後までやり遂げる子ども

社会福祉法人あすなろ会が運営する白兎保育園は、〖一人一人を大切にし、地域の中で仲間と共に輝く子どもたち〗の保育理念をもとに、近隣の自然環境を十分に活用した活動を保育に多く取り入れ、地域の広場や斜面などを生かした活動や近隣にたくさんある公園への散歩を増やし遊びの中で運動を取り入れています。また保育園から一歩外へ出てみると向山があり、山を登ると急斜面の場所もあり、体全体を使って登るので、子ども自身が考えたり、試行錯誤をしていくことで達成感をもとより、友だちと一緒に登ることで協調性も豊かにしていきます。また、雨の日には保護者と近くの公園へ傘をさして一緒に出かけ、水たまりで遊んだり花を摘んだりします。保護者が子どもの頃に遊んだことを子どもと一緒に体験できる活動を通して、子どもの園生活を見つめるよい機会にもなっています。

健康な体づくりとして近隣の自然を利用し、楽しみながら体力向上を図るようにし、早寝・早起き・朝ごはんの啓発をしながら、基本的生活習慣の定着も促しています。年中や年長児は

外部指導による運動遊びを月１回実施し活動を通して体力作りをしています。また週に２回リトミックを取り入れリズム遊びをしたり、３歳以上児は週３回遊戯室や園庭でランニングもしております。学びの基礎づくりとしてリトミックのリズム遊びで体幹を鍛えたり、歩行、ランニングを充実させ、走る、跳ぶ、バランスのとり方など様々な動きを習得したりしながら、それらの多様な動きを組み合わせ、連続、持続させることで巧みな動きの習得を促し、自ら遊びの幅を広げていけるような経験を積み重ねられるようにしています。

また、豊かな人間性づくりとして年齢や発達段階、育ちに応じ、人との関りが多く経験できるわらべ歌や集団遊び、異年齢交流を多く取り入れ、愛情や信頼関係、思いやりなどの育成に努めています。

地域との連携を深め、地域に開かれた保育園

地域との連携を大切したいという思いの中、地域の方に園の行事へ参加を呼び掛けています。散歩中に声をかけていただいたり、近くのあじさい公園の花を摘ましてもらったりするなど地域とのつながりを深めた保育を進めています。また公民館や小学校との連携も積極的に取り組み、様々な地域・学校の行事にも声をかけていただき交流を深めています。

園を知る３つのポイント

ポイント①
育児担当制

昭和43年のあすなろ会創設から育児担当制を取り入れています。乳幼児期は大人との愛着関係や信頼関係を大切にしたいとの思いから、主に排泄、給食、午睡には担当の保育士が関わるようにしています。

また、保護者満足度アンケートでは育児担当制が高い評価を受けており、保護者へ園での状況を詳らかにお知らせするなど連携を密にするよう心がけています。

ポイント②
わらべうた

あすなろ会が創立時から継承しているのが「わらべうた」保育です。わらべ歌は、人の肉声を聞きながら触れ合うことにより、心地よい空間となり、子どもが安心して遊べる環境を作ります。楽器を使って歌い遊ぶことも大切ですが、わらべうたは子どもに寄り添いながらなごやかな雰囲気を作り出します。週に１回は必ず保育に取り入れ、行事を通じて保護者へ発信し育んでいます。

ポイント③
自然との関わり

白兎保育園周辺は自然が豊かで、歩いて５分の所に向山があり、散歩がてら山登りをしたり、園の目の前にある白兎海岸では、地域の方に協力してもらい海岸で貝拾いや散策をしたりして自然と触れ合う保育にも力を入れています。県の自然認証制度に認証され、これまで以上に自然との関りを深めていきます。

各研修会報告（5月～8月）

第1回施設長研修会

うつぶき保育園　福井　典子

平成30年5月30日（水）、倉吉未来中心にて第1回施設長研修会が開催されました。

はじめに鳥取県子育て王国推進局子育て応援課係長西村英士氏より①「保育・幼児教育をめぐる現状と課題解決に向けた取り組み」続いて鳥取県福祉相談センター中央児童相談所所長川本由美子氏より②「児童虐待の対応にあたっての留意点」と題し行政説明を受けました。②では虐待が起きるのには、生活面での問題・保護者自身の問題・子どもが抱えている身体、性格上の課題など「支援の必要な家庭」という背景がある事を話され、常日頃子どもたちと接している私たちが、子どもが発する「何か変」「何か気になる」をいち早くキャッチし、ためらわず通告することで子ども達を守る義務があることを痛感しました。

講演は、鶴見大学短期大学部保育科教授天野珠路氏をお迎えして改定「保育所保育指針」を読む―保育の神髄、その在処（ありか）を求めて―と題し、20年間の保育者としての経験と指導者としてあるいは厚生労働省で改定に携わって来られた経験を通して話して下さいました。今回の講演では「養護」についてたびたび語られたことがとても印象的でした。改定により第1章「総則」に「②養護に関する基本的事項」が含まれていることを見ても幼児教育において大事なポイントであることは言うまでもありません。〝できる事を増やしていく教育のベクトルだけで良いのか？〟〝教育の本来の意味や意義はどこにあるのか？〟〝出来る事が増えることは子どもの喜びではあるが、できない事がいけないことなのか？〟―出来る事で誰かを助け、できない事は誰かに頼る「つながり」のベクトルこそ大事!!「教育にこそ養護の視点を」など熱く語って下さりあっという間に時間が過ぎました。

第1回乳児保育研修会

浜坂保育園　嶋田　恵美

第1回乳児保育研修会が、6月23日（土）に琴浦町まなびタウンとうはくにて開催されました。広島大学大学院教育学研究科准教授中坪史典先生をお迎えして『乳幼児期に受ける保育・教育がその後の人生で大切なわけ』をテーマに講演していただきました。

平成30年4月に保育所保育指針が改定され「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が加わりました。これは、育ってほしい姿であり、到達目標（出来る出来ない）ではないということを講演の始めに話され、改めて乳幼児期の子ども達への丁寧なかかわり方の大切さを実感しました。

「保育・幼児教育の質は子どもの発達やその後の人生にどんな影響を与えるか？」ということについてアメリカとイギリスでの研究結果を基に話されました。「質の高い保育・幼児教育」を受けている方が進学・就職率が高く豊かな人生を送っているとのアメリカでの結果。イギリスでは国語や算数の成績、自己抑制の発達に良い影響をもたらすという結果が出ていました。

「質の高い保育」については、子ども中心の保育を保育者がつないで発展させていくこと、挑戦的な経験が出来るよう保育を工夫し保障していくことの大切さについて話されたのが心に残りました。事例として映像で長縄跳びに挑戦する子どもの様子が紹介されました。一番多く跳べた時の嬉しさや記録を抜かされた悔しさなどを味わい、友だちや保育士と関わる中、友だちと二人で挑戦していく姿に

心の育ちを感じました。「質の高い保育」が将来社会人となった時の基盤になるということを念頭に置き、大切な幼児期を安心して過ごし、夢中になってあそべる環境作りに努めていきたいと思います。

第1回食育研修会

外江保育園　南川はつ江

平成30年度鳥取県保育所（園）食育研修会が6月30日（土）に倉吉未来中心にて開催されました。近畿大学農学部食品栄養学科大学院農学研究科准教授　冨田圭子氏をお迎えして「生きる力を育む食の世界」をテーマにご講演いただきました。

子どもを取り巻く食の現状が、食卓を囲む団欒が減り、親が子どもに関わらない食（個食・孤食・子食）が増え、家庭で癒されない子ども、あふれる食べ物に囲まれているのに見て味わって感じる心が育っていない子どもが増えていることを知りました。

行事食を食べる習慣や、料理のお手伝いなど楽しかった食生活体験、そして何よりも家族で食卓を囲む団欒が子どもの自尊感情を育て、生きる力を育んでいくことを分かりやすく教えていただきました。

「子どもは遊びの中に生きている」私たちは、子どもの内面からわき上がる喜び、笑い、驚き、悔しさ、とまどい、発見、挑戦を見ることが出来る。子どもたちにとって意義や必然性が感じられる体験（食育）が必要！と話をされたことがとても印象的でした。

調理担当者として、教える側の心（愛情）が伝わるような、また教える側も楽しめる食育、先生の言葉「食育とは楽しい遊び」を目指して、今日の講演で学んだことを今後の食育活動に活かしていきたいと思います。

主任保育士研修会に参加して

夜見保育園　松原　葉子

平成30年度鳥取県保育所(園)主任保育士研修会が、7月10日（火）倉吉未来中心にて開催されました。講師に仙台大学体育学部子ども運動教育学科教授　大宮勇雄先生を迎え、保育所保育指針改定についてご講演をいただきました。

はじめに、今回の保育所保育指針改定の特徴をどう捉えるかということについて丁寧に述べていただきました。厚労省が示す改定のポイントは、全体的には、今までやってきたことの延長線上のことが書いてあると理解しますが、保護者支援という表現から子育て支援という表現に大きく変わっていますし、3歳未満児は保育、3歳以上児は幼児教育という具合に読み取ることができます。目次の大幅変更の意味については、「養護のねらいと内容」が削除されたこと、「子どもの発達」の章が全文削除されたことから、「子どもに寄り添う」「発達に応じる」という保育の基本が薄められたように捉えることができます。保育は「計画」から始まると捉えることで、子どもに関係なく計画が立てられてしまう恐れがあります。保育は子どもから始まるものであり、「子どもへの応答」から始まるものであります。さらに、保育は日々の積み重ねです。結果で評価できるものではありません。数字や目に見える評価をすると保育の質がよくなると判断されたのではないでしょうか。また、「教育再生改革」が幼児期にまで影響してきています。教育基本法・学校教育法改正で幼児教育は「学校教育のはじまり」とされました。このことから、小学校との接続・準備を幼児教育の最大の責務と捉えられます。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の決まり方に強引な政治的介入がありました。「国旗・国家に親しむ」にいたっては、議論は一切なかったようです。「保育所保育指針の実施通知」が強調していることに、ＰＤＣＡサイクルの実施状況をチェックすることと「児童保育要録」が「一人一人のよさの理解」から「目標＝基準による評価」へと変化して

いるのではないかと捉えることができます。内容に子どもが全く出てきていません。保育とは、子どもの気持ちに応えて、間違いがあればすぐに訂正したり、変更したりすることの繰り返しではないでしょうか。保育要録において「10の姿」に対して文章で評価しなさいという書き方では、子どもたちは縛られてしまうのではないでしょうか。

次に、「目標とする育ち」について考えました。幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿のうち、例えば、「自立心」は「自己」なくして挑戦もありません。「やりたい気持ち」が諦めない粘り強さやがんばりや自信の出発点です。自立心旺盛な姿は、自分で選択したり判断したりするので、大人の意図と合致しないことも多々あります。抵抗したり、反抗したりすることもあるわけです。「やらなければならない気持ち」だけでは不十分です。では、自信や粘り強さはどのようにして育つのでしょうか。その子なりの選択やペースでかまわないから、本当にやりたい、できるようになりたいことが一つでも、一歩でも前進できれば、自信や粘り強さが身についていくことは少なくありません。特に、その子が成し遂げたことが周囲の人々にとって意味のあることだったり、一目置くような内容だったりした場合、大きな自信につながる場合が多くあります。このように一人一人、多様な道筋があります。「社会生活との関わり」については、大人を尊敬したりあこがれたりするのはごっこ遊びで育つ思いであって、挨拶や敬語で育つものではありません。「仮面ライダーになりたい。ヒーローもすごいが父ちゃんも強くてすごい。」「母ちゃんはいつもやさしい。」という思いが憧れを生みます。

最後に、保育所保育指針を鵜呑みにするのではなく、実際の保育と照らし合わせながら読み解いていく必要があると語られました。改めて保育所保育指針をじっくり読み込む重要性を考えさせられた研修でした。

初任・初級保育士研修会①を終えて

梅檀保育園　西村　孝太

初任・初級保育士研修会①が、平成30年7月24日（火）大山町の「森の国」にて開催されました。青年部が担当する研修①②③は、メインテーマを今年度も一貫して「遊びきる子どもをめざして」と設定し、さらに今年度からは、サブテーマも付け加えています。研修①のサブテーマは、～自分自身で遊びきってみよう～とし、大山の大自然の中で自分自身が遊びきり、遊びから生まれる充実と新たな表現の発見を探究する事を重点において行いました。

まず、午前中に「冒険教育プログラム、アドベンチャーワーク」を体験しました。森の国のファシリテーターから出された課題のゲームを、グループ全員で挑戦、解決していくものです。2グループに分かれた参加者38名は、グループ全員の協力があってこそクリアできる課題の解決方法を幾通りも思案しながら、解決の糸口を個々で探り、それぞれが自分の思いをグループへ伝えていました。課題を達成出来ると喜びを分かち合っていましたが、中には、解決に至らなかったゲームもあり、なぜ解決に至らなかったのか探究する場面も見られました。ワークを終えて、自分の思いを伝え合う重要性と難しさを改めて感じていました。

午後は、森の国　代表取締役の伊澤大介さんより「遊びきる環境の中での、大人の思いと子どもの思いからの育み」～遊び方は一つじゃない～と題してアスレチック巡りをしながら、ご講演をいただきました。「森の国では、一つとして同じ形のない自然の素材を使い、自ら手作りをすることによって遊びの発想が芽生え、思いのある遊具が生まれます。また自由な発想で遊んでもらう事で、新たな遊具の楽しみ方を発見と捉え、日々遊具の可能性を進化させていきたいと考えています。その為に

は、大人が子どもの遊びの幅を制限するのではなく、子どもの遊びに寄り添い、受け止める事で子どもが遊びに夢中になり、満足できる環境が作り出される」とお話いただきました。参加者は、子どもの発想や思いを受け止める事の大切さを改めて感じました。

最後は、おもちゃコーディネーターの曽根健太郎さんより、「子どもとおもちゃの心地よい関係」と題して、木製のおもちゃの特性や遊び方、価値などのご講演をいただきました。その後、グループで実際に木製のおもちゃとアナログゲームに触れて遊びを体験しました。それぞれのおもちゃやゲームの遊び方を知る事で、吸い込まれるように遊びに夢中になり、おもちゃとの空間を楽しんだひと時となりました。「おもちゃの遊び方を知り、子どもと共に楽しみ、保育の引き出しを増やして下さい。」と最後に熱いエールをいただき、会を終了しました。

第1回障がい児保育研修会に参加して

関金保育園　伊藤麻衣子

第1回障がい児保育研修会が、平成30年8月4日（土）まなびタウンとうはくで開催されました。

講師に国立成育医療研究センター副院長　こころの診療部部長小枝達也先生をお迎えし、「発達障害の幼児に対する見立てと支援～育てにくさに寄り添う視点から～」と題してご講演いただきました。

乳幼児期から思春期までの情緒の発達や変曲点についての解説の中に、「5歳半（年長組）から布置の力が身につく」という言葉がありました。「布置の力」とは、言語面においては、「文脈を理解する力」、行動面では、「見通しを持つ力」であり、「5歳半過ぎると因果関係が分かるようになり、クラスがまとまり始める。布置の力を高めるためには、活動の区切りに振り返りをして、前後を思い起こさせること、そうすることで活動の見通しや期待が持て、行動がまとまっていく。障がい児保育は個別だけではなく集団を伸ばすことが必要である。」ということを事例を交えながらお話しくださいました。

これらのお話を聞きながら、乳幼児の特性を段階的に理解し、適切な配慮をしていくことの大切さを改めて感じ、「布置の力」を高めていけるようなかかわりを意識していきたいと思いました。

講演の最後に、「よき人間関係が指導の前提」というお話がありました。「よい行動がとれたとき、『明日もできるといいね。』と期待をかけ、さりげなく翌日を見ること。決して見逃さず、認めることで定着させていく。この構図を作ることは行動療法の基本であり、私たちの義務である。」というメッセージもいただき、この姿勢を忘れず、スキルを身に付けた保育士でありたいと感じました。

第2回乳児保育研修会

福生保育園　西村　智子

第2回乳児保育研修会が、平成30年8月18日（土）とりぎん文化会館、19日（日）国際ファミリープラザで開催されました。

講師にNPOふくおか子どものこころサポートセンター　絵本専門士　柴田　香先生をお迎えし『乳児期に絵本を楽しもう～こころに種をまく時間～』というテーマでご講演いただきました。

絵本の特性、選び方などのお話やグループワークを通して様々な絵本の紹介など盛りだくさんの内容の講演でした。その中で絵本の

特性として、子どもには読み手を通して情報が伝わるので〝読み手がどんな絵本を手渡すか〟ということが大切なことであるとおっしゃっていて、まずは自分が好きな絵本を選ぶこと、そしてロングセラーのものだけでなく、書店の店頭や絵本サイトなどで新しい絵本をみることをしていってほしいと話されました。ロングセラーの絵本はたくさんの人に長く愛されて、もちろんいい絵本ばかりだが、新しい絵本には、今の子どもたちに向けたメッセージや今の時代を切り取ったものなど、これまでにないものが取り入れてあるのでそれも魅力であると聞いて、まずは保育者自身が楽しみながらたくさんの絵本に触れることが大切だと感じました。

保育園で子どもたちに絵本を読んでいると笑ったり、指をさしたり、真似して言ったりと本当に様々な反応が返ってきます。大人もそんな子どもの姿にほっこりした気持ちになります。子どもたちに絵本を読む中で大人も一緒に楽しむことで、つながりを感じられる時間になるのだと改めて思いました。

講演の中で絵本を読んでもらうことは『こころに種をまく時間』と表現されていました。忙しい日々の中でも、子どもたちと一緒に絵本を楽しむことを大切にして、心を通わせて温かい時間を過ごしていきたいと思います。

第2回施設長研修会

灘手保育園　米田美奈子

平成30年8月30日（木）倉吉未来中心にて開催されました。講師に（NPO法人）保育の安全研究・教育センター　代表理事　掛札逸美（心理学博士）氏をお迎えし「子どもを預かる施設における深刻事故予防～保育も安全も『声を出すこと』から～」と題してご講演をいただきました。NPOのサイトの「トピックス」（安全、コミュニケーション）に詳細な内容が収載されている、と説明があり、サイトの開き方（「保育の安全」で検索）を紹介され、実際にページを色々と開いて近年にあった深刻事故の事例と対応を話されました。

「園の価値」（自園は人的・物的環境を揃えているので、ここまでできます）を上げれば、事故が起きる「リスク」も上がる。子どもにある程度「リスク」を負わせなければ子どもは育たない。（冒険しない文化は育たない）「価値とリスクのバランス」を常に検討・調整しながら前進していくことが大切と言われた。

保育園にある全ての物（見た目が危ないものだけではない）を「ハザード」としたとき、この「ハザード」に対して今何が危ないか・どう危ないのか・誰が危ないのかを判断しコントロールすることによって「リスク」を下げたり、無くしたりすることができる。「ヒヤリハット報告書」は保育士が子どもを見ていたから書けること。子どもを見えていないところ（部屋から出ていく・置き去り・息ができないなど）が一番危ない。

人間の脳は皆、「つい、うっかり、ぼんやり、めんどくさい、注意散漫」で、すぐ上の空になる脳をもった生き物。だから「お互いに声をかけあおうね」と職員同士のコミュニケーションの大切さを指摘された。

江戸弁でパワフルな歯切れのいい言葉で分かりやすく、自分の園の価値は自分で決める、子どもの可能性を伸ばしていくのは周りの大人、それにはリスクが伴うこと。事故防止に対する学びの時間になりました。

うっちー先生のえほんばなし②

絵本専門士のうっちー先生です。運動の秋・食欲の秋・読書の秋がやってきました。

第２回は、５月にご逝去された絵本界の巨匠 かこさとし(加古里子)についてです。まず、かこ氏の人生を作品の特徴である〈わかりやすい起承転結〉にのせて振り返っていきます。

起

1926年福井県武生(現越前)市に生まれる。少年時代を福井と東京で過ごした。小さな頃から描くことが好きで、小学校を振り返った絵日記『過去六年間を顧みて』(偕成社/2018)は見事。東京大学工学部入学。学生時代は、航空士官に憧れるも近視のため軍人になれず19歳で敗戦を迎える。これまでの自分と、敗戦を迎えた途端、手のひらを返した大人たちに失望する。

承

「子どもたちは、ちゃんと自分の目で見て、自分の頭で考え、自分の力で判断し行動する賢さを持つようになって欲しい。」と思い子どもたちの役に立つため、川崎市でセツルメント運動を始める。子どもと直に学び合う中で大切なことを見つけていく。【大切なことは、すべて子どもたちに教わった】

※セツルメント運動の内容は様々だが、かこ氏は労働者街の子どもと紙芝居や幻燈の読み聞かせなどの活動を行った。

転

セツルメント運動で一緒だった内田路子氏（内田莉莎子氏の妹、後の堀内誠一夫人）の紹介で、福音館書店編集長松居直と会いデビュー作『だむのおじさんたち』(福音館書店 /1959) を出版。『だるまちゃんとてんぐちゃん』(福音館書店 /1967) のだるまちゃんシリーズや『どろぼうがっこう』(偕成社 /1973) のかこさとしおはなしのほんシリーズなど数々のヒット作を生み出す。科学者として『かわ』(福音館書店 /1962) などの科学絵本も多数出版。

結

絵本作家デビューから約60年間で作品数は500を超える。絶版になった絵本が近年次々に復刊されている。「休むのは死んでから休みます。」生涯現役にこだわり、描き続けた。アイデアはまだ200以上あり、亡くなる間際まで『だるまちゃんとうらしまちゃん』(未完)や鈴木まもる氏との共著『みずとはなんじゃ』(小峰書店より今秋刊行予定) の制作に携わっていた。

2018年５月２日死去　92歳没

私が子どもの頃から愛読してきたかこ作品の数々。保育士になってからもたくさん読みました。かこ作品の魅力は

・物語構成の起承転結がはっきりしていてわかりやすい。
・子どもの身近にあるものから大きな宇宙や生命の話まで繋がっていて引き込まれていく。
・画風は唯一無二、絵や画面構成がシンプルで子どもに直に届く。同時に『からすのパンやさん』(偕成社/1973) のパンの見開きページに代表されるようにたくさんの愉しい物が描かれている。

などが挙げられます。しかし、改めてかこ氏の半生を振り返っていくと、保育との共通点が見えてきました。

セツルメント運動で学んだこと。子どもほど正直な観客はおらず、面白くなければ、行動や態度にすぐに表れます。子どもと楽しむためには何が必要なのか。「子どもをよく観察し、それにふさわしい対応をすればきっと伝わる。」と考えたくさんのことを学び取っていきました。【児童行動学】と後に振り返っています。その中から少し抜粋します。

かこ語録

〔自分から興味を抱いたものを調べてどんどん深めていく時の充実感はその子の生きる喜びにつながっている〕

〔自分で楽しみを探し出しその楽しみが次のエネルギーとなって伸びていく、それが生きる力〕

〔子どもが子どもらしく生活すること生きていかれる環境を守らねばならない…それは、傍らにいる大人の役目である。〕

ん？これは保育指針？遊びきる子ども？と錯覚するほどに、保育の中で大切なことと同じです。かこ氏は戦後すぐに実践の中でこれらを学び取りました。そして、子どもの好奇心をつつくしかけを絵本のあちらこちらにちりばめていきました。

そりゃあ時を越えて、子どもたちにかこ作品が届くわけで、私（いつまでもガキ大将）や子どもの心を持った保育園・幼稚園の先生たちが大切にしたいわけだ！と思いました。発表会の劇で題材として取り組みやすいかこ作品は、起承転結がはっきりしているからですが、同時に、根底に流れる かこイズム に子ども・先生がシンパシーを感じているからなのかもしれません。

戦後、子どもさんのために役に立ちたいと考え、決して休むことなく伝え続け、生涯を終えました。これからはゆっくりお休みください。作品と共に、大切なことを私たち大人が伝え続けていきたいと思います。

かこさとしさん、ありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。

参考文献 『現代思想　９月臨時増刊号　総特集＊かこさとし』（青土社 2017）『未来のだるまちゃんへ』（文藝春秋 2016）

絵本紹介②

『だるまちゃんとかまどんちゃん』

加古里子（かこさとし）　さく / え　2018 年 1 月　福音館書店

最後のだるまちゃんシリーズ３冊同時発売の中の１冊。今回の友だちは、不思議な存在のかまどんちゃん。ままごと遊びをしているといつの間にか一緒になって遊んでいるかまどんちゃんとだるまちゃんの物語。

晩年の作品までストーリーがわかりやすく、50年経ってもだるまちゃんのわがままっぷりも健在（笑）さすが生涯現役。

東日本大震災への鎮魂と慰霊、原発事故への警鐘の念をこめた作品です。

本紹介①

『未来のだるまちゃんへ』

かこさとし　2016 年 12 月　文藝春秋

かこさとし自身が半生を振り返りながら、子どもさんにとって何が大切なのか、大人は何をしなければならないのかを語りかけてくれます。保育士・絵本専門士の私にとっての教科書です。えほんばなしでは語り足りなかったことだらけなので、ぜひご一読ください。

※文庫版のあとがきに追記があるので、文庫版の紹介です。

うっちー先生プロフィール

鳥取市公立園の保育士。

保育士 / ジュニアスポーツ指導員 / 絵本専門士

第三期絵本専門士に認定され、県内外で活動を行っている。

絵本専門士 | 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 絵本専門士委員会

※ Ameba ブログ『絵本専門士うっちー先生の活動記録』

【ホームページリニューアル】

広報委員会からのお知らせ

約２年前より、ホームページのあり方について検討を重ねてきました。その結果、平成31年度春より、ホームページをリニューアルすることとなりました。

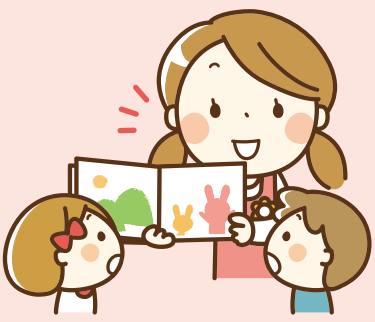
（現状）　・更新がされていない。
　　・閲覧数が伸びない。
　　・情報量が少ない。等の課題がありました。　　等

（改善点）　・簡単に更新ができる。
　　・研修内容の確認や申し込みができる。
　　・スマホやタブレットでも確認できる。　　等

契約会社については、数社検討した後、２社に絞ってプレゼンテーションを行い、最終的に１社に決まりました。

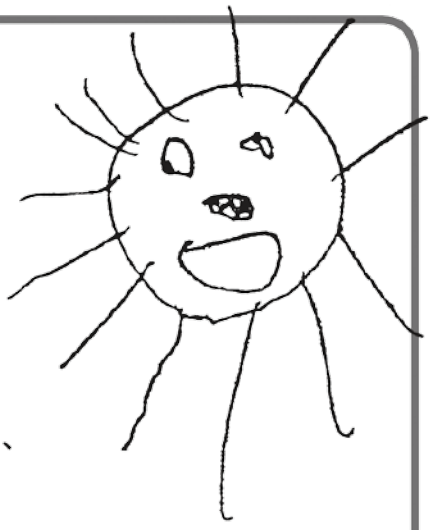
このホームページリニューアルに際し、鳥取県の保育業界及び鳥取子ども家庭育み協会の発展を願っております。

編集後記



仕事と家庭の両立を考える中で、その中にも「遊び」の重要性を見いだします。仕事の中にある「遊び心」家庭の中でも、もちろん「遊び心」は大切です。そうやって、生活の中にある様々な事柄に興味や関心を持って、生きることが、仕事と家庭を両立させることにつながるような気がします。

園および園児を さまざまなリスクから サポートします



園経営には、さまざまなリスクが伴います。
（公社）全国私立保育園連盟指定代理店である（有）ゼンポでは、
園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する
各種保険を取り扱っております。

ほいくのほけん

「園賠償責任保険」
「園児団体傷害保険（学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険）」
「特別保育事業賠償責任保険」
など、園経営におけるリスクに関する保険を
ラインナップしています。また、それらを総合的に
補償するセットプランもご用意しております。

園児総合保障 共済制度

園児を24時間補償する共済制度
（総合生活保険（こども総合補償））です。
団体契約による割引の適用で割安な掛金で
補償を確保することができます。

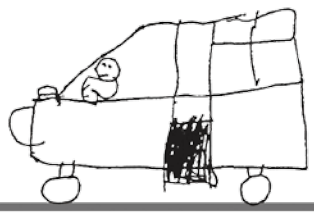
上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。
ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

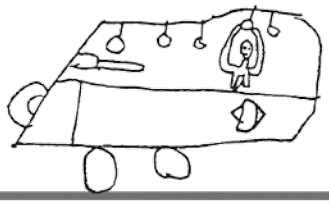
〈連絡先〉　（公社）全国私立保育園連盟指定
東京海上日動火災保険株式会社代理店

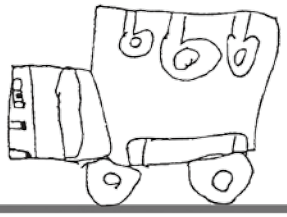
有限会社ゼンポ
〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
TEL 03-3865-3881　FAX 03-3865-2806

〈引受保険会社〉
東京海上日動火災保険株式会社
担当課：公務第二部 文教公務室
TEL：03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・総合生活保険（こども総合補償）の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育園連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。







17-T10450　2018年2月作成